

S001 | シンポジウム1

【併催学会】 歯内療法

歯髓の保存・再生と歯根膜の保存・再生 ～歯髓と歯根膜に存在する幹細胞に着目した歯科臨床を考える～



[モデレーター] ^{たかやま}高山 ^{しんいち}真一 (滋賀県開業〈高山歯科医院 院長〉, 滋賀県歯科医師会)

●略歴● 1990年 大阪大学歯学部卒業
1998年 歯学博士 (大阪大学)

S
シンポジウム

S001-1 歯髓の保存 ～断髓法, 不可逆性歯髓炎に対する新しい治療オプション～



^{いづみ} ^{ひでゆき}
泉 英之
(滋賀県開業〈泉歯科医院〉, 滋賀県歯科医師会)

近年, 断髓法という治療オプションが再び注目されている。非可逆性歯髓炎と考えられる症例に断髓を行ったケースシリーズがいくつか報告されており, 高い成功率となっている。これらの報告をきっかけのひとつとして, 今年ESE から出されたポジションペーパーにおいて, 断髓法が治療オプションのひとつとして載ることになった。今回は断髓法の理論的背景, エビデンスをオーバービューしたうえで筆者の私見についても述べたい。

●略歴● 2000年 日本大学松戸歯学部卒業/著書: 治る歯髓 治らない歯髓 歯髓保存の科学と臨床, クインテッセンス出版, 2018.

S001-2 歯髓の再生 ～リバスクラリゼーション/再生歯内療法の現状と課題～



^{たきもと} ^{こうよう}
瀧本 晃陽
(東京都開業〈瀧本歯科医院〉, 東京都歯科医師会, 三鷹市歯科医師会)

従来, 歯髓壊死を伴う根未完成永久歯の治療法としてアペキシフィケーションが選択されてきた。2000年代に入り, リバスクラリゼーション/再生歯内療法と呼ばれる処置を行うことで歯根の成長, 生活反応の回復を得られる可能性が報告された。近年では, 症例数の増加に伴い同術式の予後やリスクファクターに関する報告がなされている。本講演では, リバスクラリゼーション/再生歯内療法の現状と今後の課題について考察を行う。

●略歴● 2008年 広島大学卒業/2015年 博士(歯学)(東京医科歯科大学大学院)/2018年 米国歯内療法専門医課程修了(テキサス大学ヘルスサイエンスセンターサンアントニオ)/受賞: PBRG Young Investigator Award (2015年)/AAE Resident Research Award (2018年)

S001-3 歯根膜の保存 ～歯根膜が保存する顎堤, インプラント治療への応用～



^{もりた} ^{じゅん}
森田 潤
(滋賀県開業〈モリタ歯科医院〉, 滋賀県歯科医師会)

拔牙に伴い束状骨・歯根膜複合体が喪失することで歯槽堤の吸収が起こる。欠損顎堤にインプラントを埋入する場合, あるいは補綴装置のポンティック部位として計画される場合, 組織の喪失を抑制するため拔牙時にリッジプリザーベーションが, また歯槽堤回復のため硬・軟組織増生が選択されることがあるが, 歯根膜と歯根を粘膜下に保持することによる歯槽堤温存の有効性も多く報告されている。臨床例を交えて議論したい。

●略歴● 1987年 大阪大学歯学部卒業/2011年 歯学博士(大阪大学歯学部大学院)

S001-4 歯根膜の再生 ～細胞増殖因子による歯周組織再生療法の成果と課題～



^{たかやま} ^{しんいち}
高山 真一
(滋賀県開業〈高山歯科医院 院長〉, 滋賀県歯科医師会)

歯根膜に存在する幹細胞を細胞増殖因子で増殖, 活性化させ歯周病により失われた歯周組織を再生させるチャレンジは1990年代から始まった。血小板由来増殖因子(PDGF-BB)やインスリン様増殖因子(IGF-I), 骨形成タンパク質(BMP-2), 塩基性線維芽細胞増殖因子(FGF-2)が研究され, その成果から医療器材や医薬品としての発売がなされてきた。本演題では, 主にFGF-2による歯周組織再生の成果と今後の課題について概説する。

●略歴● 1990年 大阪大学歯学部卒業/1998年 歯学博士(大阪大学)